

## 「シンポジウム 東日本大震災の記録とその活用」で今村教授が登壇しました (2011/10/8)

10月8日(土)、遠野市民センター(岩手県遠野市)にて、「シンポジウム 東日本大震災の記録とその活用」が開催されました(主催:防災科学技術研究所,サイエンス映像学会,学系連携・震災対応プロジェクト,311まるごとアーカイブズ)。本シンポジウムでは、被災地の失われた「過去」の記憶をデジタルで再生し、被災した「現在」と復興に向けた「未来」の映像や資料をデジタルで記録し、アーカイブする取り組みについて、その活用等について議論することを目的に開催されました。当センターの今村教授は、防災科学技術研究所が行なっている311まるごとアーカイブズの世話人しており、また、上記のプロジェクトは本学のアーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」と連携関係にあります。第1部では、実働部隊の体験を交えながらのデータ収集の取り組みの紹介(データを集める)、第2部はその利用についてのパネルディスカッション、第3部は世界への発信に関するパネルディスカッションが行われました。今村教授は、このうち第2部、第3部のパネリストとして登壇し、歴史的な視点の必要性、アーカイブにおける自然災害科学の役割、みちのく震録伝の紹介などを行いました。パネリストには、大学や民間だけでなく、被災自治体も登壇し、アーカイブに対する期待などが述べられました。パネリストや会場からの発言が相次ぎ、すべてのセッションで時間を超過するほどでした。詳細は、以下を参照ください。  
[http://311archives.jp/index.php?module=blog&eid=14204&blk\\_id=14202](http://311archives.jp/index.php?module=blog&eid=14204&blk_id=14202)



講演の様子



世話人挨拶(今村教授)



パネルディスカッションの様子